

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
“精神の落込みは金曜の夕方に訪れる”
—新製品開発を支える精神力—
(株) ジョンクエルコンサルティング 落合以臣

Front-end loading in new product development
“Mental depression comes on Friday evening”
- Mental power to support new product development -
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords

摩擦・反感・人間関係・精神的な苦痛・回避・コントロール
Friction, antipathy, human relationships, mental pain, avoidance, control

親切を装った精神的な苦痛を与える方法

新製品開発に限らず自身が担当する仕事では、気分の良い日はほんの少し、後は嫌なことばかりということをよく耳にします。特に、切羽詰まっているときほど、周りの人々との摩擦も多く、反感をかってしまう状況に陥ってしまい、それが原因となって自暴自棄になるケースもあります。こうした状況を作り出す背景は、どこにあるのだろうか、どのようにしたら超えることができるのだろうかなど、さまざまは推論をめぐらし、挙句の果てには堂々巡りを引き起こす事態になってしまうということがあるのではないのでしょうか。そのことは、少なからず誰もが経験していることと言えます。

人間というものは、ちょっとしたことが気になる、あるいはならない人に分けられると思いますが、筆者は大いに気になるとでもいいでしょうか、それだけ摩擦を多く作り出すと言っても過言ではないかも知れません。当たり前のことですが、人間関係が良好な時は、多少の摩擦に気を取られることはありませんが、ギャップが少しずつ広がってきますと、もう止めてしまいたいという境地に陥ってしまいます。このような状況になったときに、さらに状況を悪化される出来事が、金曜日の夕方、しかも4時過ぎに訪れるということです。「ちょっといいかな、君のことで気になることを耳にしたので伝えた方が良いと思ってね」という出だしから始まり、「〇〇さんが、君は使いものにならないので、部を出そうと思っていると言ってたよ」、どのような経緯でそのようなことになったのか教えてもらえますかと尋ねたところ、「どのような真意があるのか、それは聞いていない。用事があってこれから帰るから」といって帰ってしまう。聞かされた方は心配事がつのる一方で、明日土曜日、日曜日は悶々として暮らすことになるわけです。今から思えば、親切を装った精神的な苦痛を与える方法であり、まんまとその手法に乗ってしまったと言えます。

解決方法は？

では、親切を装った精神的な苦痛を受けたとき、どのような回避方法があるのでしょうか、その術を聞きたいという人がたくさんいると思います。まず、してはいけないことは、忍耐・忍耐と自身に言い聞かせ我慢を強いることです。なぜならば、余計に不安を煽り、つまらぬ詮索を巡らすことで、怒り、嫉妬などが胸にこみあげてくるからです。すべきことは、親切を装った精神的な苦痛を与えられたとき、小さなメモ用紙を用意して、「△△様、いろいろお気遣いいただき、またご心配をさせてしまい、誠に申し訳なく思います。どのような状況に置かれようと精進して参りますので、これからもご指導をお願いします」と自筆で書き連ね、親切を装った精神的な苦痛を与えた方の机に置いて帰ることで。そして、翌日の朝、その方に「昨日は、ありがとうございます。机の上に、御礼を書いて置きました」というようなメールをすることです。それらの行為は、自筆で書くことで自身の気持ちが少し整理でき落ち着くことができ、また翌日のメールで、何を書いたんだろう、誰かが見てはしないかなど逆に不安を与えることができるからです。この方法で、不安の70%は解消されるはずですが。あとの30%は、自身の反省を促すエネルギーにすることです。

本来であれば、こうした状況に陥らないように、日頃から細心な注意をしなければなりません。人間というものは複雑なので、なかなか思うようにはいきません。なぜならば、感情と嫉妬は表裏の状況にあるからです。この嫉妬を如何に上手くコントロールしていくのか、人生での戦いであると思います。是非、実践してほしいと思います。